



会報

No.58号

平成31年2月

KOCHI TECHNICAL HIGH SCHOOL



創立者像



第27回まんが甲子園 決勝テーマ「永久機関」
高知工業高校「まんが王国・土佐推進協議会会長賞」受賞
漫画研究部は、「まんが甲子園」での活躍が評価され、
平成30年度「文教文化賞」も受賞

高知県立高知工業高等学校同窓会

平成 31 年度同窓会総会のご案内

日時：平成 31 年 4 月 29 日(月) 昭和の日
受付：午後 3 時

場所：ザ クラウンパレス新阪急高知 3 階

日程：15：30 開会行事・総会
16：30 講演 大野 良一 氏（昭和 43 年工芸科卒）
17：40 卒業半世紀（昭和 44 年卒）記念写真撮影
18：00 懇親会（会費：7,000 円）

※半世紀（昭和 44 年卒）・四半世紀（平成 6 年卒）の方は別途ご案内致します。
※平成 31 年 3 月卒業生及び本年に成人式を迎えられた方の会費は要りません。

出席予定の方のみ **3 月 25 日(月)**までに同窓会へご連絡をお願い致します。

同窓会ホームページの下記 URL からもお申込が出来ます。

<http://kthsdosso.org/soukai/soukai.html>

平成 31 年度 総会講演講師プロフィール

大野 良一 氏（昭和 43 年工芸科卒）

現在 新制作協会会員、日本美術家連盟会員、高知県展無鑑査

1949 年 仁淀川町（旧 池川）に生まれる

1968 年 高知工業高校 工芸科卒業

1972 年 九州産業大学 芸術学部 美術学科卒業

高知工業高校 教諭採用（退職まで 38 年間勤める）

1974 年 高知県展 無鑑査

1977 年 高知県展 審査員（以降 25 回）

1989 年 新制作展 入選（以降 26 回）

1992 年 黒潮町 『母の塔』像 制作

1993 年 愛媛県 久万青銅之廻廊『浜』、『母子』收藏

2006 年 高知県展功労者表彰

2012 年 シェイクハンド龍馬像 制作（吉岡氏・西本氏合作）

2014 年 新制作展 新作象賞受賞（2015 年 同賞受賞）

2015 年 公募団体 ベストセレクション 出品

2015 年 長野県 佐久市立近代美術館『ぬし』收藏

2016 年 新制作展 会員

2018 年 オーテピア『寺田寅彦』像 制作

肖像彫刻 14 点、記念碑 10 点、校章・シンボルマーク 4 点 制作

目 次

平成 31 年度同窓会総会のご案内

ご挨拶・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・	1
<u>同窓会会長・校長</u>	

卒業半世紀・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・	3
<u>電気科・土木科</u>	

卒業四半世紀・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・	6
<u>建築科</u>	

<u>記念講演より</u> ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・	7
--	---

支部便り・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・	13
<u>東京支部・静岡支部・東海支部・大阪支部・安芸支部・物部川支部・嶺北支部・幡多支部</u> <u>青年部</u>	

<u>開校記念ゴルフ大会のご報告・ご案内</u> ・・・・・・・・	18
-----------------------------------	----

母校だより

<u>進路指導部より</u> ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・	19
---	----

<u>進学指導部より</u> ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・	20
---	----

<u>企画・情報部より</u> ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・	21
イノベーション KT の取り組みについて、課題研究発表会について	

<u>部活動成績</u> ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・	21
---------------------------------------	----

<u>本部より</u> ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・	23
--------------------------------------	----

伝 統

同窓会会長 包國 勝（昭和 39 年機械科卒）

明治 45 年 5 月 4 日に執り行われた私立高知工業学校 開校式典における創立者竹内 綱先生の講話の中で、

『工業技術者としての素養』優良なる技術者というものは、次に申す様な素養を持つものでなければならぬ。

1. 身体の強壯なること。
2. 技術上の学問の素養あること。
3. 学問の素養と相まって、之に副ふだけの実地上の手腕あること。
4. 上の 3 つの能力を発揮するに足る人格を備ふること。

この講話は竹内 綱先生の高知県工業教育の発展にかける情熱がほとぼしるものであったと記されています。（校友会誌 第一号 大正 4 年 11 月 10 日発行より）

開校の翌年には高知工業を訪れ『工業富国基』と揮ごうされています。



この扁額は現在も校長室に掲げられており、以来この 5 文字が学校設立の根本精神を表す『校是』として、同窓生の心に生き続けています。また、上記講話での『工業技術者としての素養』は創立 80 周年記念誌『火水翼』では『校訓』と紹介されています（31 頁）。

恩師の塩田一郎先生からお話を聞く機会がありました。先生は昭和 13 年 3 月機械科卒業で、99 歳の白寿を迎えられます。その一部を紹介します。

「当時の学生は生徒手帳に記された『竹内精神』を確認することが日課であり、また週に一回は学校長から『生徒心得』の授業を受けていた。当時 1 年生の時の座席は成績順で、後列左隅が 1 番で最前列にはもっと勉強をしなければならない生徒が並んでいた。しかし何年か後には、背の高いものが前列ではおかしいという事になり、席順は替わった」と話されていました。

歴代校長は塩田先生が 9 代目で、現在の横畑校長が 18 代目となります。先生はこのすべての歴代校長と面識があるだけではなく、親しいお付き合いをされていたそうで、ご本人は「多分すべての校長さんと接触がある人は他にはいないのではないか」とおっしゃっていました。まさに、創立以来 106 年の伝統を知り尽くした『生き字引』であり、まだまだお元気でいらっしゃいますので、色々とお教をいただかなければと思いました。先生のお話を聞きながら思ったことは、今少し信頼を失いかけている日本の技術に必要なのは、創立時に制定した『竹内精神』ではないかという事でした。伝統の継承は同窓会の大きな仕事の一つです。

現在も継続している事業として、新入生への『工業ハ富国ノ基』読書感想文表彰。創立記念日の行事に代わる事業として、5 月初旬に創立記念にかかわる講演。昨年の文化祭では『歴史資料展』を学校と一体となって実施しました。

新たに本年度から生徒奨励事業として、ジュニアマイスターゴールド（全国工業校長協会主催）取得者に対して顕彰し、副賞として 1 万円の商品券を贈呈します（昨年

取得者 40 名)。また、クラブが利用する学校管理バスへの支援も始めました。同窓会は学校への応援体制を確立してまいります。

平成 31 年度総会は大型連休中になりませんが、4 月 29 日（月）昭和の日にザ クラウンパレス新阪急高知にて開催いたします。総会講演は本校同窓生で彫刻家の大野良一先生を予定しています。皆様のご参加をお待ちしています。

ご挨拶（校長）

また、本部および各支部総会に参加する若い会員（新卒・新成人会員）の参加会費を本部負担とするなど、組織活性化の援助は継続していきます。

まだまだ課題も山積しておりますが、今後とも会員の皆様のお知恵を頂き、開かれた同窓会として発展していきますよう、ご協力とご支援を宜しくお願いしご挨拶と致します。

校長 横畑 健（昭和 53 年情報技術科卒）

同窓生の皆様におかれましては、ますますご健勝にてご活躍のことと存じ上げます。また、日ごろから本校の教育活動の充実・発展のためご支援を賜り、心から感謝申し上げます。

同窓生の皆様がそれぞれの地域・職場で活躍されながら、母校に対しても気に掛けていただき、ありがたく、感謝しております。

本年度は、伝統の体育祭を 10 月 3 日に開催いたしました。前回の体育祭から平日開催としておりますが、これは部活動での対外試合などが最も少ないであろう日を設定したためです。入学年によっては在学中に 1 度しか経験できない体育祭ですので、出来るだけ多くの生徒が参加できるように配慮したものです。平日にも関わらず、たくさんの保護者や同窓生、地域の皆様に観戦いただきました。45 回を迎えた体育祭ですが、連覇を目指す土木科と、“今回こそ優勝！”を目指す他の科との戦いぶりが楽しみでしたが、土木科は 31 連覇を達成しました。2 位は建築科でわずかに力及びませんが、大いに検討しました。そして、応援部門で優勝したのは、正統・硬派の応援

を女子生徒が披露した総合デザイン科でした。同窓会からは応援部門の優勝科に飲み物を賞品としていただいております。ありがとうございました。

また、同窓会から全国工業高等学校長協会が主催するジュニアマイスター制度で、ゴールド以上の認定を受けた生徒に対し、顕彰制度を設けていただきました。生徒間でも話題になっており、資格取得や各種技術競技会、コンペなどに挑戦する励みにもなっております。同窓会には心から感謝申し上げます。

5 月 4 日の本校開校記念日に対する在校生の意識を高め、意義深いものとするため、創設者の工業教育に対する高い理念に基づき開設された、早稲田大学の先生方に様々な工学に関する内容をご講演いただく同窓会共催の”開校記念講演会“は、本年度も 5 月 2 日に基幹理工学部情報通信学科 教授 小林哲則氏をお迎えし『人工知能と会話ロボット』と題して講演をしていただきました。人工知能はあらゆる分野での活用が進み、その技術も加速度的に進展し、私たちの生活も大きな影響を受けています。未来を思い描く技術者として、不可欠な技術で

ありその考え方を感じて欲しいという思いで依頼いたしました。

卒業予定生徒の進路につきましては、企業への就職希望者（卒業予定者の約 46%）は、全員が内定をいただいております。このことは、同窓生の皆様がそれぞれの職場や地域において、活躍され信頼を得ているからこそとあらためまして感謝申し上げます。また、進学希望者につきましては現在も受験活動中ですが、相当数のものが合格を勝ち得ています。

本校は、全国レベルで勝負のできる学校、日本一の工業高校を目指そうと取り組んでおり、これらを具現化していくため、学校の教育活動のあらゆる場面で、学校にイノベーションをという思いで、『イノベーションK T』を合言葉として、チーム学校として取り組んでおります。

全体としてはまだまだ不十分ですが、実社会でも十分通用する難度の高い資格の合格者数や合格率は全国レベルに達しており、各種技術競技会、コンペなどでも、トップレベルの成果を出しております。

卒業半世紀（昭和 43 年 3 月卒）

卒業半世紀を想う

濱野 公一（昭和 43 年電気科卒）

今思いますに、信じられないほど短く感じられる自分の半世紀で有ったことか。当時から変わらない『その内何とかなるだろう』の、かなり自分自身に対し甘く無責任な性格のまま過ごしてきたような気がします。

卒業式寸前まで就職先も決まっていまらなかったが、特に危機感も感じて無かったかと思えます。幸いに倫理の森先生の紹介

部活動では、創部百年を迎えた野球部は春の全国選抜大会 21 世紀杯の高知県推薦校として選ばれ、自然科学部は県高文祭化学部門の最優秀校として来年度の全国総合文化祭への出場権を 2 年連続獲得いたしました。また、漫画研究部はまんが甲子園で 2 年連続入賞を果たしております。このように、高知県代表として運動部、文化部とも全国につながる県大会や四国大会でも、これまでなかなか越すことのできなかった壁を超えるなど、少しずつ着実に成果を上げております。こうした、生徒たちの日頃の活動の様子を逐次ホームページに掲載しておりますので是非ご覧ください。

創設者から続くものづくりや人づくりの精神は、連綿と受け継いでいく必要があります。全国に誇れ、生徒たちが自信をもてる専門高校を目指してまいります。

同窓生の皆様には今後とも更なるご支援・ご協力をお願い申し上げますとともに、同窓生の皆様の益々のご活躍とご健勝を、ご祈念申し上げご挨拶いたします。

をいただき、大阪の中小企業（計測器メーカー）に、なんとかぎりぎり潜り込む事ができました。

新人研修期間では、計測器の修理部門を担当しました。配属は、製造を希望しましたが、最も嫌っていた営業職でした。

名古屋営業所で 4 年。東京営業所で 6 年。神奈川県をテリトリーとする横浜営業所を新設することが決まり、初代所長として 10

年。
会社の方針と合わず退職した時は、20年と半年が経過していました。

最初は嫌っていた営業職でしたが、以外とおもしろく結構活躍出来たと自負しています。

退職したのはいいのですが、この時点では何をしたらいいのか目的が定まっていませんでした。結婚して2年。1人娘も1歳少々。よく家内も我慢してくれました。

退職した翌月の昭和63年11月、退職金をつぎ込んで資本金500万円にてダイナテック(株)を設立。

設立当初は展示会場によく行きました。そこで出会った会社の販売代理店となったのが、私にとって大きな好機となりました。

会社員であった20年間はネクタイをして、大学の研究室、国立研究所等に営業していました。しかし実績も信用も無い個人会社で、同じようにネクタイをしての営業では、とても勝ち抜くことは不可能と気づきました。ネクタイをしている人がやれない、又は嫌う仕事であれば十分競争力が有るはずと思い、そのような業種を選択し代理店となりました。

その業種とは、工場で製造される製品検査の自動化でした。検査員が目視にて不良品を排除しているのを、カメラが目となり、

検査員の代わりに務めます。

例えば、コンビニエンスストア等で販売されている食品容器（どんぶり麺・缶コーヒー・ペットボトル等々）の外観検査（汚れ・欠け・割れ）を行います。

これらの製造現場は、環境が厳しくとてもネクタイ族は入れません。

製造ラインにカメラ・照明を取付け、不良品が流れてきたら、その不良をカメラが撮像し、コンピュータが解析してエラーにて排除します。

製造現場は24時間稼働です。検査装置に異常が発生した場合は、ライン停止となるため、迅速に対応しなくてはなりません。初期の頃はしばしば発生していたため休日もほとんど取れない状況でした。晩酌が終わり風呂に入っている時にSOSの電話が有ったりもしました。やむを得ず家内の運転で数時間かけて現場に急行し対処したことも有りました。

平成30年10月31日が第30期の決算日となります。

よくぞ30年間続けてこられたものと不思議な気がします。

社員数20人弱の小さな会社ですが、優秀な後継者も確保できました。

後継者の自立、社会の為優柔不断な私ですが、まだまだ頑張ります。

卒業半世紀を振り返って

坂本 全布（昭和43年土木科卒）

今から53年前{高知県内公立高校入試出願中間発表最高倍率は高知工業土木科}の記事が新聞紙上を踊った！中学の進路担任が二次志望先は確実に受かる学校学科を選

択するように、との指導を受けた記憶が生々しい。

最難関を突破した精鋭？が入学し同期となる。高校生活は、同級生同士仲間意識が

直ぐに芽生え、各人が部活に没頭。それは楽しい時間を共に過ごしました。バスケット部：堀田、(以下本稿では敬称略)氏原、相撲部：田中、テニス部：松山、ボクシング部：北村、高橋健一、サッカー部：野島、弓道部：井上隆、陸上部：滝石、柔道部：豊永、吹奏楽部：安藤、井上昇三など自分は卓球部。部活が終わり帰宅の途中、空腹を満たす、校門そばの学食で一杯の“うどん”を食べるのが楽しみでした。なぜなら、自分は自宅からバスで土佐山田駅それから汽車路面電車を乗り継ぎ通学時間を多く要していたからです。

ほろ苦い思い出は2つ。インターハイ予選のための朝練後授業中に早弁を食べていると、普段物静かな小柄な物理の〇〇先生に見つかり「君はナンのために高知工業に通っているのか？」一瞬凍りつきましたが、はっきりした口調で「就職するためです」と答えると「それなら、ちゃんと授業は受けなさい」いつもの優しい口調だった。このことは忘れられない出来事です。次に、秋の体育祭において前年度優勝した土木科が選手宣誓をすることとなり、大きな透る声の自分が大役をやらせてもらいました。1年上の先輩には今でも感謝しております。ただし、この年の土木科は全員、全力を出したにもかかわらず惨敗でした。

楽しい思い出は、やっぱり修学旅行。行先は日光から東京観光、「純喫茶アシベ」で当時人気絶頂のグループサウンズを生で見て感動したものです。失敗は、仲間3人と夜8時過ぎ、皇居で樹木に隠れてアベックをのぞき見していたら、警察官に捕まり厳重指導を受けたこと。

卒業後、大成建設(株)に入社本社土木設計部に配属となった。何しろ高知の田舎からいきなり銀座。周りを見わたせば、有名大学の出身者ばかり！高卒は自分だけの職場環境！息抜きは勤務時間中に白衣を着たま

ま、松屋・三越デパートをルッキングすることでした。19歳でインドネシアの原油パイプラインの設計業務に派遣となった。その風景は、日本の明治時代？床高式の住居、庭にバナナの木が数本、帰国する際、バリ島、バンコク、台湾、香港のビル群を巡り、これが世界なのか？貧富の差を実感しました。

その後、東京支店の現場勤務を経て、技術研究所となった。この時期は、コンクリートの材料・施工法の研究・開発に没頭した。主な成果は①ダムコンクリートの分割練り方式による施工方法②水中不分離性コンクリート③コンクリートの混和材料ポリプロピレン繊維 {バルチップ} ④養生装置 {トンネルミスト}⑤コンクリートの剥離・剥落対策 {炭素繊維複合型パネル工法} ⑥トンネル背面空洞対策 {発泡ウレタン工法}。この頃はバブルのまっただ中、ゴルフや飲み代も会社持ち、それもあつと言う間に去り、何時しかゼネコン冬の時代を迎えた。40の半ばに土木技術部勤務、52歳“早期退職者募集”広島市の(株)マシノに転職。ここで工事部を立ち上げ、国土交通省などの元請やトンネル橋梁の補修補強工事の下請を実施しています。

振り返れば、これまで周りの人達に支えられ幸運の一言でした。高校入試では、それまで一度も塾に通ったことがなく勉強らしいことをしてこなかったが一週間前にクラスメイトからもらった例間から問題が出された、次に、大成建設入社試験では直前に同期が「坂本これ見ちよきや」と{東京都土木職員採用試験問題集}から水理の難問とほぼ同問題があった。さらに、技術士試験では、経験論文を先輩が添削してくれ、二次試験の面接官が土木学会の委員会で面識があり1回の受験で合格できたことなどです。

卒業から半世紀が過ぎ、同期の仲間では

残念なことに数名が物故者となっていますが、今でも昭和43年土木科卒は極めて絆が強く、世話役の大川、下元、別役および徳弘の献身的な努力のたまもので、毎年12月

30日高知市内に集まり同窓会を行っています。これから元気なうちは、参加して土佐弁を満喫しながら良き時間を過ごし、長生きの源としたいと思います。

卒業四半世紀（平成6年3月卒）

『卒業四半世紀を迎えて』

公文 克典（平成5年建築科卒）

四半世紀の同窓会では、久しぶりの友人にも再会でき、楽しい時間を過ごすことができました。このたび世話人の大役をいただきましたが、黒岩先生や協力してくれた杉本君に頼ってばかりで申し訳ありませんでした。又、これを期にもっと同窓会を開いていければと考えています。黒岩先生、次回も協力いただけますようよろしくお願いいたします。

今回、改めて卒業して25年という歳月がたっていることを再認識し、自分自身も振り返ることができました。何もない平凡な毎日を過ごしていたと思っていましたが、自分なりにいろいろな経験も積み、大人の階段を上ってきたのかなと思います。

私は、卒業とともに県内大手の建設会社大旺建設(株)（現在は大旺新洋(株)）に入社し、建築施工管理技術者として今までいろいろな建物の工事に携わってきました。20代前半までは先輩方の指導の下、ただ仕事をこなす毎日でしたが、その後は次第に現場を任せてもらえる様になり、官庁舎、保育園、病院やアミューズメント施設、小ぶりですがお寺の新築工事も経験いたしました。工事毎に、関係する方々は変わります。有名企業の社長、各役所の担当者、保育園の園長、又病院の院長など様々な役職の方々と対応をさせて頂き、これらの経験は私の人間力を大きくアップさせてくれたのではと思います。

私は常日頃、まずは私を信頼していただくことが大事だと考え行動してきました。時には、仕事ばかりの付き合いではなく、遊びを通して関係を築いていくことも大事といたしました。結果、多くの方々から今でも仕事が終わってもよくしていただいております。次の仕事をと依頼して頂ける御施主さんもおられます。本当に感謝する次第です。人それぞれに個性があり、又人生があると思います。自分自身を考えますに、これまでは現在のところ自分らしい人生を歩んでいると評価したいと思います。

今後において、様々な自分に期待してくれる方々に応える為、より一層の努力をしていくことと、現在も毎年のように入社してくる母校からの新入生に工業OBとして、自分の習得した技術のみならず、人生の先輩として生き方考え方を指導していかなければならないと考えております。後輩の成長と共に、自分自身の人間力も延ばしながら、これからの人生を最高のものにするよう歩んでいきたいと思っています。意気込みはありますが、まだまだ若輩者であります、皆様これからもご指導、ご鞭撻よろしくお願い申し上げます。

最後に、伝統ある高知工業高校のOBであることを誇りに思い、又皆様と一同に会って語り合う場が出来ますよう祈念し会報といたします。

念ずれば花ひらく

株式会社 第一コンサルタンツ
代表取締役社長 右城 猛 (昭和 45 年土木科卒)

1. はじめに

昭和 45 年土木科卒の右城猛でございます。恩師や同窓会の大先輩たちがおられる前でお話をさせていただく機会を与えていただき、大変光栄に思っています。

演題の「念ずれば花ひらく」は、詩人坂村真民の詩集にでてくる言葉で、「今を大切に、目の前のことに一生懸命取り組んでおれば、自ずと道が開かれ、夢が叶う」という意味です。

私は、これまで建設コンサルタントエンジニアとして土木構造物の設計を本業としながら、落石対策や擁壁に関する研究を行ってきました。平成 19 年からは第一コンサルタンツの社長をしています。

今日お話をさせていただく内容は、これまでに私が心掛けてきたこと、私の仕事の流儀、振り返って見て気がついたことなどでございます。

2. 私の経歴

私は昭和 25 年に本山町古田で生まれました。

普通であれば昭和 44 年に卒業するはずでしたが、2 年生の時に腎臓病と診断され、1 年間の入院生活を送りました。後に、誤診だと分かったのですが、このお陰で同級生が 2 クラスできたことや、入院しなければできない貴重な経験ができたことで無駄な 1 年ではなかったと思っています。

昭和 45 年 3 月 5 日に県内の建設会社に就職しましたが、わずか半年で辞め本山町役場でアルバイトをしていたとき、徳島に橋梁の設計ができるコンサルタントがあることを知りました。建設省に勤務していた叔父に紹介してもらって昭和 46 年 2 月に就職しました。ここで 15 年間勤務しました。コンサルタントの仕事は私に合っており、仕事を面白く感じました。この間、働きながら夜間に徳島大学工短期大学部土木工学科で 3 年間勉強し、昭和 52 年に卒業しました。

昭和 61 年 4 月、第一コンサルタンツ取締役技術部長として入社しました。36 歳になる年です。そして、常務取締役、専務取締役を経て、平成 19 年、57 歳のときに代表取締役社長となり現在に至っています。

3. 第一コンサルタンツの概要

第一コンサルタンツは、昭和 38 年に「第一測量有限会社」として設立されました。

昭和 46 年に社名を「株式会社第一測量にコンサルタンツ」に、昭和 61 年に再び株式会社第一コンサルタンツに変えています。

事業所は、本社が高知市介良に、幡多支店が四万十市、安芸営業所が安芸市、松山事務所が愛媛県の松山市にあります。

事業内容は、道路、橋梁、トンネルなどの社会インフラをつくり、守るための設計、測量、地盤調査などを行っています。

社員数は 126 名です。このうち高知工業高校出身者が 20 名います(図 1)。今日はこのうちの 12 名が参加しています。

第一コンサルタンツの売上高の推移を図 2 に示しています。私が入社した昭和 61 年は 3.5 億円でしたが、借金が 3 億円ありました。金利が 7~8% のときです。いくら働いても利益は全部銀行に持って行かれます。とんでもない会社に入ったものだと思直後悔しました。



図 1 第一コンサルタンツの従業員

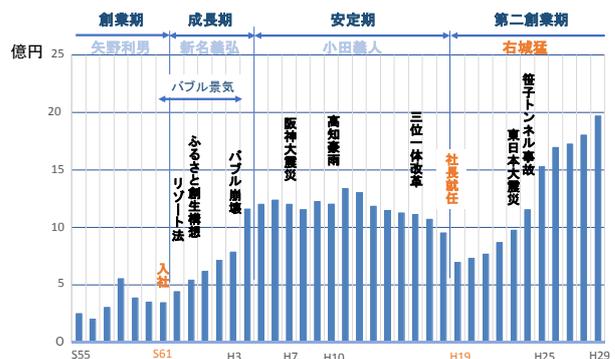


図 2 売上高の推移

どうすることもできず経営破綻を覚悟していた昭和 62 年に、リゾート法や四全総(第四次全国総合開発計画)など国の経済政策が打ち出され、ゴルフ場やリゾート施設などの大規模開発のブームがやってきました。そのお陰で経営は一気に立ち直りました。

第一コンサルタンツの仕事は、99%が国や地方自治体の公共事業です。このため売上高は公共事業予算に影響されます。

高知県の平成 19 年度の建設事業費は、ピークであった平成 10 年度の 1/3 まで落ち込みました。この影響で高知を代表する建設会社が次々と倒産しました。

第一コンサルタンツの売上高もピーク時の半分にまで落ち込み、営業損失が出るまで経営状態は悪化していました。そのようなとき私の社長就任が決まりました。

私は、それまで経営には関わっていませんでした。また、業界の経営者とお付き合いすることはありませんでした。このようなことから「右城は技術者としては優秀だが、経営者には向いていない」と多くの方が思っていたようです。

社長就任から 3 年目には無借金経営となり平成 29 年度の売上高は就任時の 2.8 倍にまで伸ばすことができました。

技術者が経営者として向いていないということはありません。むしろ技術者は、データを分析し、物事を論理的に判断できる能力に長けているので、経営者に向いていると思っています。目標を決めれば、なすべき課題が見えてきます。社長がリーダーシップを発揮し、妥協することなく課題を解決することを実践していけば会社は良くなるはずです。

4. 私が心がけてきたこと

1) 頼まれたことは基本的に断らない

他人から頼まれごとがあった場合、予定が重なっていたりスケジュール的に無理であったりしない限り、基本的に引き受けることにしています。

私では能力不足と思えることもありますが、相手は私なら何とかしてくれると思って頼んでくるわけですから、期待を裏切るわけにはいきません。私にできることを精一杯やればそれでいいのだと割り切って引き受けています。

失敗を恐れていたなら何もできません。やれば何とかなるものです。難しい頼まれごとほど自分を成長させ人脈を広げ、次のステージへ進むことができます。

2) 自分の納得する仕事をする。

自分の頭で考えることなくマニュアルに頼って仕事をする技術者が増えていきます。その方が楽

であるし、もし間違っていたとしても責任逃れができると考えているからだろうと思います。

しかし、それでは技術を伸ばすことはできません。私はマニュアルを鵜呑みにせず、マニュアルができた背景、前提条件を調べ、納得しないと信用しないことにしています。

地震や豪雨など災害が起きた場合には、時間の許す限り現地に行き、土木構造物の被害状況を調べるようにしています。

定説になっている理論であっても、現場で実際に起きている現象をうまく説明できないものは改めるべきです。前提条件やモデル化が不十分か、基本的に間違っているかどうかです。

頭で考えて分からないことがあれば簡単な実験をすることにしていきます。立派な設備がなければ実験できないと思われがちですが、大概のことは工夫すれば身近にある材料を使って実験できます。

3) 諦めることなく思考を継続する。

いつでも納得した仕事をしたいと思っているのですが、時間的な制約から解決できない問題を残したまま、成果品を納めなければならないことがしばしばあります。

これは心掛けているというより、私の性格によるものだと思います。疑問に感じるものがあれば、それがいつまでも頭の隅から離れません。そして、あるとき解決策が突然ひらめくことがあります。

人間の体は 60 兆個の細胞でできており、細胞一個一個に遺伝子が組み込まれているといわれています。遺伝子のスイッチが入っているのは 5%で残り 95%はオフ状態になっているそうです。思考を継続していれば、その中のいくつかのスイッチがオンになり、それまで見えなかったものが見え、聞こえなかった声が聞こえるようになるためだと思います。

4) 考えは文章にして公表する。

私は、思いついたことや考えたことは、できるだけ新聞や雑誌に投稿するようにしています。

以前は高知新聞の読者欄「声ひろば」にときどき投稿していました。投稿しても時宜を得たテーマと内容でなければ掲載してもらえません。掲載されても、投稿したときのタイトルや文章がそのままではなく、新聞社の校正係に手直しされています。

毎回、今度こそはと思うのですが、必ずどこかが直されています。文章は簡潔でなければならないことはわかっているのですが、余計な言葉がいかに多いかがわかります。

「日経コンストラクション」という雑誌に、5 年間ほど連載記事を執筆したことがあります。論文

のような文章は通用しません。読者は誰なのかを考え、読者に分かる文章にすることが求められ、書く訓練をさせていただきました。

文章上達の秘訣は、たくさん書くことですが、上手な人に添削を受けることも大切です。

5. 私の仕事の流儀

私が 50 代に入って担当した落石対策に関する研究及び技術開発を紹介いたします。私の仕事の流儀を分かっただけのものと思います。

平成 9 年に政府より「公共工事コスト削減対策に関する行動指針」が出されました。私は、落石防護柵基礎の現行の設計手法に以前から疑問を持っていました。落石荷重は瞬間的に作用する衝撃荷重であるにも関わらず、静的荷重として取り扱っており、この結果、安全余裕の多い無駄な設計になっていると思っていました。

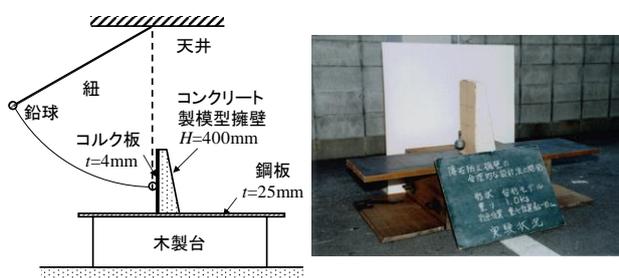
平成 11 年に、四国建設弘済会(現・四国クリエイト協会)の研究助成金をいただき、私の理論を証明することにしました。研究では、コンクリート製の擁壁模型を作り、これに鉛玉をぶつけ、擁壁の応答を調べました(図 3)。

そして、私の提案で設計すれば従来の方法よりコストを 2 分の 1 に抑えられるという論文を書いて、四国建設技術官民懇談会主催の新技术発表会で発表しました。

すると国土交通省の四国技術事務所から、「右城さんの理論を実物大実験で検証して下さい」という依頼がきました。

そこで、平成 13 年 12 月から 1 年半かけて図 4 のような実験を行いました。0.5 トンの重錘を防護柵に衝突させると基礎は私の計算通りに挙動することを確認することができました。

しかしながら防護柵の吸収エネルギーは想定していたよりはるかに小さく、マニュアルで求められる値の 2/3 のエネルギーで重錘が金網を突き破りました。



①擁壁に衝突 ②前方へ回転 ③後方へ転倒

図 3 落石防護擁壁の模型実験(H12 年度)



図 4 落石防護柵基礎の実物大実験(H13 年度)



図 5 実斜面での落石実験

落石現場では、防護柵は斜面からの落石を受け止めており、期待通りの性能を発揮しています。実験結果と異なる原因は、斜面を落下する落石の速度が想定しているよりも遅く、運動エネルギーが小さいためと考えられました。

これまでは落石の運動エネルギーと防護柵の性能の両方を過大に評価し、結果的にラッキーハーモニーを保っていたのです。この私の仮説を検証するため、実際の斜面で落石実験をすることを提案しました。

実験は、愛媛県土居町の採石場の斜面を借りて行いました。自然石だけでなく、コンクリートで球体と立方体の供試体をつくり、その中に加速度センサーとデータロガーを埋め込み、それを落下させる実験です。供試体は 10 個作るのに、それだけで 700 万円を要しました(図 5)。

これまで落石の運動は、すべり運動または転がり運動と考えられていました。しかし、実際にはバウンドの繰り返しであることがわかりました。落石が自由落下するときには、運動エネルギーが増加しても斜面へ衝突する度にエネルギー損失が起きます。このため落石の速度も運動エネルギーもマニュアルによる計算値よりはるかに小さくなることが証明できました。

平成 20 年には、ロングスパン工法という落石

防護ネットを開発しました。

落石防護ネットの施工業者である田中工業の社長が、従来工法よりも施工が簡単になる工法を開発したいと相談に來られました。

施工性が良くても、コストパフォーマンスに優れた製品でないと売れないので、ネットにダンパーを装着させた高エネルギー吸収型落石防護ネットを提案し、その開発を行いました(図 6)。



図 6 高エネルギー吸収落石防護ネットの技術開発

開発に当たっては、実物実験を 10 回行い、そのうちの 3 回は公開実験としました。このような大規模な実験を公開するのは本邦初であったことから、初回の公開実験には、全国から 330 名の研究者や技術者が参加してくれました。また、テレビ局や新聞社などの報道関係者も大勢取材にきてくれました。

実験を繰り返し行って改良することで従来型の 5 倍の 400 キロジュールの落石エネルギーを受け止められる落石防護ネットを開発することができ、平成 22 年には国土交通大臣表彰を受けることができました。

6. 夢は叶う

私の 20 代の夢は、「学会で研究論文を発表したい」「技術士になりたい」「本を書きたい」でした。気がつけば、これらの夢はすべて叶っていました。

1) 学会で研究論文を発表したい

大学を卒業している人は、教授の指導を受けて土木学会や地盤工学会で研究発表しています。しかし、大学を出ていない私にはそのような機会がなく、論文を書いて発表することが夢でした。

30 歳のとき、誰の指導を受けることもなく、「推定 K_h, K_v のばらつきがくい基礎の設計に与える影響について」という論文を書いて、広島で開催された土質工学研究発表会で発表しました。

これ以後、毎年 10 編程度の論文を発表してきました。気がつけば、これまでに 250 編を超える論文を書いています。

私が提案した土圧計算法と落石運動の予測法に対して、平成 9 年に愛媛大学が博士(工学)の学位を授与してくれました。

現在は、岐阜大学、愛媛大学、高知大学の客員教授、土木学会論文査読員をしています。

2) 技術士になりたい

建設コンサルタント会社に勤務していると、技術士試験に合格してはじめて一人前と認められます。私も技術士になることが大きな夢でした。

私に受験資格ができたのは 32 歳のときでした。短大を卒業していましたが、卒業が遅かったので高卒の資格で受験することにしました。そのためには、経験年数を積み重ねながら二級土木施工管理技士試験に合格し、さらに一級土木施工管理技士試験に合格しなければならなかったからです。

建設部門の「土質及び基礎」を受験しました。合格できたのは 34 歳のときで、3 度目の挑戦でした。

47 歳のときには建設部門「鋼構造及びコンクリート」に、52 歳のときには総合技術監理部門「土質及び基礎」に合格しました。これらはいずれも一回で合格できました。

気が付けば、3 つの技術士資格を持ち、現在は日本技術士会の理事、日本技術士会四国本部の副本部長、高知県技術士会の代表幹事を務めています。

3) 本を書きたい

22 歳のとき微積分を勉強したいと思っていたとき、「微積分のはなし」(大村平著)という本に出会いました。ベッドに寝転んで読むだけで微分、積分、偏微分のことが面白いように解るのです。それまで数学の本をいろいろ買って読んでも理解できなかっただけにとても感激しました。

このとき、専門的なことをこの本のように誰にでも解るようにやさしく書くことができたらどれほど素晴らしいかと思ったことでした。

私の処女作は、36 歳の時に第一コンサルタンツから出版した「中小橋梁の計画」です。第一コンサルタンツでも橋梁の設計ができることをアピールすることが目的でした。

39 歳の時には「道路土工指針に基づく擁壁の設計法と計算例」を理工図書から出版しました。



図 7 これまでに出版した著書

学歴も実績もない私が、名門の出版会社から発刊できたのは、村山保先生が推薦して下さいお陰でした。

この本は約 1 万冊売れ、専門書としては異例のベストセラーとなりました。当時、初心者にもわかりやすい擁壁の設計に関する本がなかったためだと思います。

本が売れると、全国の読者から質問が来るようになりました。質問の中には、技術的に解明されていないものも多くありました。このことが、私が土圧や支持力などの研究を始めるきっかけとなりました。

平成 7 年には、「誰も教えてくれなかった疑問に答える擁壁設計 Q&A」という本を理工図書から出版しました。これには、私が表計算ソフト「エクセル」で作成した 8 種類のプログラムを収録した CD を付録に付けました。この本も増版を何度も重ねるほどのヒット作品になりました。

私の名前が知られてくると、「日経コンストラクション」や「土木技術」などの雑誌から連載記事の執筆依頼がくるようになりました。連載記事がある程度たまると、単行本として出版されます。

気がつけば、共著も含めると 30 年の間に 20 冊の単行本を出版していました(図 7)。

7. 振り返って見て気がついたこと

1) 昨日の常識は、今日の非常識。

この歳になって、わかったことがあります。「昨日の常識は今日の非常識」ということです。このことは、「今日の常識は、明日の非常識」になることを意味しています。

私が若い頃に教わったことで、現在は否定されていることがたくさんあります(図 8)。

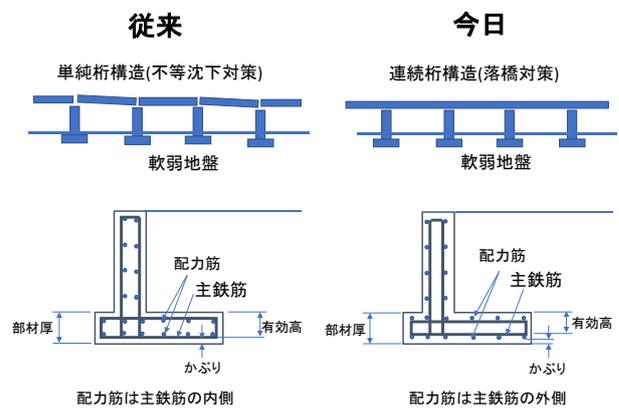


図 8 昨日の常識は今日の非常識

「軟弱地盤に橋梁を架けると不等沈下を生じるため、単純桁構造にして沈下が橋の構造に影響するのを避けなければならない」と教わりました。最近では、「軟弱地盤ほど地震時に落橋する恐れがある。連続桁にしなければならない」が常識となっています。

徳島大学の工業短期大学部に通っていたとき、コンクリート工学の権威であった荒木謙一教授に、「主鉄筋と配力筋のどちらを外側に配置するのが正しいでしょうか」と質問したところ、「主鉄筋は外側に決まっている。有効高さを大きくすれば経済的な設計ができる」と明快におっしゃられました。最近では、「構造的に大事な主鉄筋は内側」が常識となっています。まったく逆です。

技術が進歩すれば、常識も変わります。技術基準書に書かれていることが絶対的に正しいと思っただけではありません。真実は、神様以外、誰にも永遠に分からないのです。

2) 目標が高いほど成長する。

現状と目標とのギャップを「問題」と言います。ギャップをなくすためにやるべきことが「課題」です。目標を大きく掲げるほど、やるべきことが増えるので、大変です(図 9)。

ほとんどの人は現状に満足し、変化を嫌います。その方が大きなエネルギーを使う必要がなく楽なためです。

私が社長に就任して 11 年が経ちます。この間に売上高を 2.8 倍に伸ばすことができました。四国一になることを目標に掲げ、社員を鼓舞し続けてきた結果だと思えます。

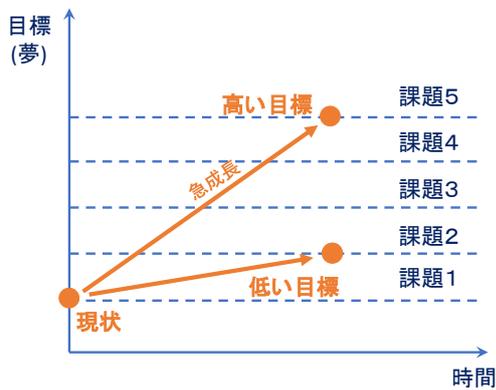


図9 目標を決めれば課題が見えてくる

社長が大きな目標を持っていなければ、会社を発展させることはできません。成功している人は例外なく大きな夢を持ち、その夢を周りの人たちに熱く語っています。

3) 運・鈍・根

私は疑問に思ったことに対して納得できないと次のステップに進めない不器用な人間です。頭の回転が遅いので一つのことを理解するにも他人の数倍の時間を費やします。人並みより少し上を目指そうとすると、やることを絞り込むしかありませんでした。気がついたら、擁壁と落石の問題に取り組んで30年以上の歳月が経っていました。

休日は、自宅に閉じこもって文献を読んだり論文を書いたりしてきました。たまに家族と遊びに行っても頭の中は研究のことばかり考えていました。擁壁と落石の問題に根気よく愚直に取り組んできたことが今日の結果につながっていると思います。

尊敬する村山保先生から教わった言葉に、「運・鈍・根」があります。先生は、「うどんこ」と教えてくれました。一つのことを根気よく愚直に続けていれば、必ずチャンスが巡ってきて成功するという意味です。格言の中でこれほどの的を射たものはないように思います。

聡明で目先が利く人は、世の中に翻弄されて後手後手に回っているように見えます。聡明な人に目先の損得で動く人が多いように思われますが、このような人は成功していません。

4) 心の財(たから)の蓄積が運を左右する

これまで「万事休す」と思ったことが何度かありました。そのような時に助けてくれたのが日頃懇意にいただいている友人や知人でした。日蓮が弟子に出した手紙の中に、「蔵の財(たから)よりも身の財すぐれたり 身の財よりも心の財第一なり」という一文があります。

世の中で上手くいっている人は、間違いなく「心の財」をたくさん蓄えています。

若いときは個人の能力の占めるウエイトが大きいです。歳を重ね部下が増えるに従って周りにどれだけ支えてくれる人がいるかが大事になってきます。

「かけた情けは水に流せ、受けた恩は石に刻め」昔からいわれていることですが、利他の心を持って人に接することが心の財を蓄える上で重要だと思います。

8. 念ずれば花ひらく

私が社長になって始めた社内行事の一つに、神社への参拝があります。平成20年から始めました。1月4日の仕事始めに、幹部社員で土佐神社へ初詣して、会社の発展と安全を祈願しています(図10)。

平成21年からは、巨大絵馬に社員全員の抱負や願い事を書いてもらい、それを奉納しています。最初の絵馬は、私がホームセンターでベニヤ板を買ってきて、ノコギリで切って作りました。2年目からは社員に作ってもらいました。現在は大工さんに頼んでいるので立派な絵馬になっています(図11)。

絵馬の奉納は、今年で10回目となりました。ありがたいことに会社が順調に伸び、社員が増え絵馬のサイズが毎年大きくなっています。

平成24年の絵馬から「めざせ四国一」の文字が入り、これがいつの間にか「めざせ日本一」に変わっています。絵馬は社員に任せているので私は何の指示も与えていません。

第一コンサルタントは、「高知を守る」をスローガンに掲げています。高知を守るためには、多くの若者が必要ですが、残念なことに毎年、2,000人の優秀な若者が県外へ転出しています。高知には若者に魅力のある企業が少ないからです。



図10 幹部社員で土佐神社に参拝



図 11 奉納している巨大絵馬

第一コンサルタンツが日本一の建設コンサルタントを目指すのは、優秀な若者に県内に残ってもらいたい、そして「高知を地震から守る」「高知のインフラを守る」「高知のコミュニティを守る」力になってもらいたいからです。

日本一は、はるか彼方にありますが、「念ずれば花ひらく」ことを信じ、大きな夢に向かって進んで行きたいと思っています。

9. おわりに

私のこれまでの人生を振り返ってみますと、恩師や先輩、友人、同僚、そして家族といった人たちに恵まれました。

特に、恩師の北岡健一先生、宮田隆弘先生、高知工業高校の大先輩である村山保先生、現在後援会会長をされている包国勝先生をはじめ母校の恩師、先輩、同級生たちに支えられてここまで来ることができました。

これからも更に精進を重ね、高知県や母校のために貢献して参るつもりです。どうか、今後とも宜しく願い申し上げます。

平成 30 年 4 月 29 日
ザクラウンパレス新阪急高知に於いて

支 部 便 り

東京支部（桂工会）

支部長 谷岡 健吉（昭和 41 年電気科卒）

4 月 29 日（日）の同窓会本部の総会・懇親会には支部代表として谷岡健吉が出席しました。

6 月 8 日（金）には定例の支部役員会を八重洲倶楽部で開催し、役員若返りや若手との食事会等について議論しました。新卒生の支部総会等への出席を促す目的で開催してきたこの食事会については、年々新卒生らとの連絡が困難となっており、何らかの対応策が必要との担当役員からの報告がありました。また次年度の支部総会・懇親会は 2019 年 10 月 12 日（土）に開催することを決定しました。

10 月 13 日（土）（13:00～14:45）に銀座一丁目の「TOSA DINING おきやく」で開催した支部総会・懇親会には、来賓として母校より池田昌隆副校長先生、同窓会本部からは包国勝会長と山本里花先生にご臨席を賜りました。また高知県東京事務所からは副所長の小松信彦氏がお越しくございました。今年も同窓会本部から若手参加者への経済的ご支援をいただきました。山本里花先生については、9 月 12 日の高知新聞夕刊で「高知工 製図 5 年連続日本一」、「勇退“鬼先生”に花道」と紹介されていたことから、先生の教育者としての情熱、ご実績の話題で懇親会も大変盛り上がりしました。

今年度の高知県人会関係では 11 月 9 日（金）の関東高知県人大懇親会に桂工会代表として池上博副会長が出席しました。

今後の予定としては、平成 31 年 2 月の母校での同窓会入会式への出席、また 3 月 9 日（土）に副会長以上等による支部役員会を開催して 30 年度の東京支部桂工会の活動をすべて終えることとなります。



静岡支部（静桂会）

支部長 小川 純一（昭和 37 年機械科卒）

静岡支部（静桂会）は平成 13 年（2001 年）発足以来 17 年目を迎えました。最近では会員獲得の為に、南国市が本社で静岡県富士宮市に進出している企業の社員さんを、本部事務局から紹介していただき勧誘しています。今年も支部活動に尽力してまいりますので宜しくお願いします。



平成 29 年度活動報告

11 月 5 日 静岡支部（静桂会）総会開催
（静岡市クーポール会館）

包國同窓会会長と藤原教頭先生にご出席して頂き、賑やかな総会となりました。

平成 30 年 1 月下旬『卒業生に贈る言葉』寄稿
（永野睦希氏 平成 28 年電気科卒）

平成 30 年度活動報告

4 月 29 日 本部総会へ支部長が出席

11 月 4 日 静岡支部（静桂会）総会開催
（静岡市クーポール会館）

東海支部（南風会）

支部長 松本 幸平（昭和 53 年機械科卒）

初めまして、東海支部南風会の支部長となりました、昭和 53 年卒業の松本と申します。今年度の東海支部総会にて、支部長に任命されました。長年、松村先輩に支部長を務めて頂きましたが、松村先輩の『若返り、若返り』の言葉に今回決断し、支部長を務めさせて頂くこととなりました。まだまだ若輩者ではございますが、今後ともよろしくお願ひします。

七夕の 7 月 7 日に行われました支部総会の写真を添付しました。写真中央にドンと構える猪野先輩は、御年 98 歳を迎え来年は白寿となります。毎年元気な姿に、全員孫以下の対応です。当然ですが、現在は 3 世代がお酒を酌み交わす楽しい支部総会です。

残念なのが、集中豪雨の影響で本部から先生が来られず会いたがっていた 20 歳代の若い面々が残念そうにしていました。是非来年は先生と白寿を迎える猪野先輩と 3 世代がお酒の酌み交わすことを楽しみに、近況報告と致します。先生方、来年は必ず来てください。



大阪支部（鯨工会）

支部長 堀田 秀雄（昭和 43 年土木科卒）

同窓生の皆様、お元気でしょうか。

関西地区では平成 30 年の 6 月は地震、9 月の台風等でバタバタしました。未だに爪痕は残り、復旧作業も続いております。最近はやっと落ち着きはじめましたが、あまりにも爪痕が大きく災害規模の大きさには、技術職員、作業員の不足で、追いつきません。あちこちに影響が出ております。

いずれにせよ、環境の大事さ、人々の健康が一番だと、思い知らされます。

10 月 20 日には、姉妹校の小松工業高等学校関西支部の同窓会に私共の役員が、出席しました。来年は 80 周年の創立記念になるそうです。お互い交流を深め、頑張っていきたいと思っております。同窓会の皆様の健康を祈願し、ご報告を致します。



平成 30 年度活動状況

- 4 月 29 日 本部同窓会総会
堀田支部長、大崎副会長出席
- 6 月 16 日 大阪支部「鯨工会」総会開催
(大阪リバーサイドホテル)
- 11 月 8 日 第 43 回鯨工会ゴルフコンペ開催
(愛宕原ゴルフ倶楽部)
- 平成 31 年 3 月 第 44 回鯨工会ゴルフコンペ開催
(予定)

平成 31 年度活動計画

- 平成 31 年
- 4 月 29 日 本部同窓会総会 出席予定
- 6 月 15 日 大阪支部「鯨工会」総会開催予定
- 11 月 第 45 回 鯨工会ゴルフコンペ開催
(予定)

安芸支部（芸工会）

黒岩 良行（昭和 40 年電気科卒）

安芸市、芸西村、中芸 5 カ町村にお住いの卒業生の皆様、同窓会安芸支部「芸工会」に入会しませんか。「芸工会」は、平成 18 年に発足し、その概要を下記に記します。（会員数）

合計	機械科	電気科	情報技術	化学科	土木科	建築科	工芸科
37	5	13	2	6	7	3	1

会の主な活動内容

年 2 回集会を開催し、会員相互の親睦と情報交換を通じて、心のリフレッシュを行う事としている。

今年も 9 月 22 日、包国会長、藤原教頭、中野事務局長、矢野事務局長次長にご出席頂き、支部総会を開催。ワイワイ・ガヤガヤと学生時代に返り楽しく杯を交わしました。（ストレス発散で 10 歳は若返りました。）多数の入会を待っています。



物部川支部

支部長 大窪 和男（昭和 48 年電気科卒）

物部川支部支部長の大窪です。7月の支部総会にて、支部長に選出されて早くも半年が過ぎました。7月の総会后、11月の役員会、1月の新年会の開催と、当初の計画通り皆様のご協力が進めています。

春には支部ゴルフ大会の開催を提案していただいていますので、計画したいと思っています。

今後も皆様のご意見、ご提案を取り入れ、有意義な会にしていこうと考えておりますのでご協力よろしくお願いいたします。

今後の予定ですが、2～3月にゴルフ大会、4月に会計監査、5月に役員会、7月に総会を予定しています。新規会員も募集していますので、香美市・香南市周辺の方はぜひご参加をお願いいたします。



嶺北支部（吉野川会）

支部長 西村 行雄（昭和 37 年土木科）

初冬の候 同窓生の皆様方におかれましては、益々ご清栄の事とお喜び申し上げます。

本年は、当地区では自然災害など大きな被害はありませんでしたが、各地域では大雨や地震等の被害が大きく出ております。また本年はたいへんな猛暑で熱中症などの広がりを見せておりましたが、同窓生の皆様にはお変わりありませんでしたでしょうか。

当同窓会では、地域の清掃活動で公園の清掃、花壇の花植えを行っております。

活動に参加していただける会員も高齢、少数化しておりますがより多くの同窓生に参加してもらえよう、頑張っ地区の同窓会を盛り上げていきたいと思っております。当地区の、同窓生の参加をよろしくお願いいたします。

平成 30 年度活動報告

- 4月29日 本部同窓会出席
- 10月5日 嶺北支部役員会
- 11月25日 公園清掃・支部総会



幡多支部（波多愛校会）

支部長 福田 充（昭和 44 年建築科卒）

6月19日四万十市に於きまして平成30年の幡多支部（波多愛校会）の総会を開催いたしました。本部より包国会長を始め3名の本部役員をお迎えして同窓生26名の参加により自己紹介も行いました。今回は初参加の同窓生もおり、また若い同窓生の参加もありました。来年度以降の参加者が増えそうとの話しも出て大変盛会な懇親会となりました。幡多支部は、1年1回だけの総会と懇親会ではございますが、本紙面をお借りし、幡多の地でご活躍されています同窓生の方々へ来年の参加のお願いをしたいと思います。

現在300名を超える同窓生を輩出しています幡多支部へ是非ともご参加をくださいますようお願い申し上げます。



青年部

『筆山公園記念植樹周辺の除草作業』の実施

支部長 北川 雅規（昭和 60 年機械科卒）

平成30年1月30日（日） 筆山公園の除草作業を行いました。

筆山公園には、創立100周年記念植樹の桜と昨年植樹をした青年部設置記念の桜の木があります。今年度も同窓会青年部及び本校生徒、保護者、教職員も参加協力して創立100周年記念植樹木周辺の除草作業を行いました。この活動は、青年部としての恒例事業として実施しています。毎年、寒い季節時期ですが、早朝よりご参加いただいた皆様にお礼を申し上げます。

作業終了後、懇親会も開催し交流を深めました。また、この事業を継続していけますように今後とも宜しくお願いします。



春の様子

開校記念ゴルフ大会のご報告・ご案内

ゴルフ部会幹事 大窪 和男（昭和48年電気科卒）

ゴルフ愛好家の皆さん、毎年のご参加ありがとうございます。
昨年は、参加者が少なく少し寂しい大会になりましたが、競技は熱戦が繰り広げられ、好プレー、珍プレーもあり、大変楽しい大会になりました。皆さんのご協力大変感謝いたします。
さて、平成31年度は平成最後の開催となります。平成最後のチャンピオン目指し多数のご参加をお願いいたします。



平成31年度開校記念ゴルフ大会ご案内

記

- 日時 平成31年4月28日(日曜日)
スタート8時30分頃の予定(若干の時間の変更はあります)
- 場所 高知ゴルフ倶楽部 高知市重倉945番地 TEL088-845-1163
- 参加資格 同窓生 教職員 ご家族の方
- 競技方法 18ホール ストロークプレイ HC ダブルペリア方式
- 参加料 2,000円(プレー費は自己負担とする)
- 参加申込み・お問い合わせ
申込み・問い合わせ先 高知工業高等学校同窓会事務局
住所 高知市棧橋通り2丁目11-6
TEL・FAX 088-831-4133
- 申し込みは3月31日までをお願いいたします。(組合わせ表は4月15日ごろ発送予定です。)
※出来るだけ1組単位での申し込みをお願いいたします。
申し込みは郵送・FAX・電話で受付いたします、必要事項のご記入、ご連絡よろしくようお願い申し上げます。
又、組合せ表は決定後、代表者に郵送させていただきます。

平成31年度開校記念ゴルフ参加申込書

代表者氏名		電話		FAX	
卒業年・科		住所			

1組				
参加者名	卒業年	科	住所	電話・FAX

平成30年度の就職状況について

進路指導部長 澤田 浩志

本校同窓生の皆様には日頃より大変お世話になっております。進路指導部より本年度の就職状況を途中経過ですが、ご報告させていただきます。

本年度は146名の生徒が就職を希望しており、11/1現在118名が内定をいただいております。未内定は公務員希望が26名です。民間企業につきましては終了している状況です。公務員では、高知市役所8名が技術・事務職で内定をしております。

次に求人数ですが、今年度も昨年に引き続きさらに求人依頼は増加しております。今年度も県外企業からの求人依頼が増えており、製造業を含め土木・建設業など多業種にわたり求人依頼が発生しているのが特徴です。また、地区別では関東・関西はもちろん九州地区からの求人もあります。ただ、限られた就職希望者の中で、すべての求人依頼にお応えすることができなく大変心苦しい心境であります。今後も、就職希望者の大幅な増加がない限りこの問題は解決しそうにありません。今年度は例年と同様に、就職・進学希望率が半数ずつとなっていますが、就職希望者の内、県内希望の生徒が6割となっています。これは、さまざまな報道等でもあるように県内企業の人材不足で、高卒・大卒ともに就職環境が売り手市場の状況にあり、県内企業の求人が高い水準を維持しています。本校への求人も昨年よりも微増となっており、また、技術系公務員の採用予定数も土木・建築を中心に増加しています。

生徒は部活動や各科の先輩方とのつながりを重要視しており、これまで実績のある製造業を中心に各専門分野を活かした受験先を志向する傾向が続いております。結果、各企業でご活躍されている諸先輩方のお力添えや、就職試験直近の面接指導、進路ガイダンス等の各事業へのご協力に

よる賜だと感じております。そのような活動が実を結び、各企業が本校に対する期待度の現れとなって、ここ数年早い段階での内定をいただくことができております。あらためてお礼申し上げます。

求人数の推移（過去5年間）

	平成26年度	平成27年度	平成28年度	平成29年度	平成30年度
求人総数 [社]	524	643	706	805	913
県内求人数 [社]	132	195	165	201	214
県外求人数 [社]	392	448	541	604	699

※平成30年11月1日現在

生徒の就職先地域については以下のとおりです。

就職者の地域分類（過去5年間）

	平成26年度	平成27年度	平成28年度	平成29年度	平成30年度
関東地区 [人]	14	5	10	8	4
中部地区 [人]	21	24	26	15	21
関西地区 [人]	20	12	22	11	15
中国地区 [人]	3	0	6	1	3
四国地区 [人]	16	22	25	9	14
その他 [人]	0	0	0	0	0
高知県内 [人]	65 (46%)	63 (50%)	70 (44%)	77 (64%)	62 (52%)
総計 [人]	142	126	159	121	119

※平成30年11月1日現在

今年も特徴としましては、県外では愛知県を中心とした中部地区への内定者が多いことです。トヨタ関連企業をはじめ製鉄会社など大手企業が集中し、生徒からは人気の高い地区となっております。また、四国や中国地区は採用枠の拡大や高知県から近隣ということもあり、昨年は希望者が減少していましたが、今年度は例年並みに戻っています。関東地区は例年同様若干名ですが、大手鉄道会社や製造業への内定者がいます。求人数が多い割に希望者が少なく苦慮しています。何れの地区でも卒業生のご活躍により同窓会各支部活動の活性化が期待されます。今後ともご指導ご鞭撻のほどよろしくお願い申し上げます。

最近の進学状況について

進学指導部長 安芸 暢英

昨年度の具体的な進学状況は、大学68名(国公立29名[高知大学5名・香川大学1名・高知工科大学23名]、私立大学39名)、専門各種学校54名、短大・ポリテク等が12名でした。(別表「平成29年度 科別進学者数」を参照下さい。)高知工科大学は6年前から高知県内高校卒を削減するなど入試制度も含め変化し、システム工学群では物理内容の学科試験を課したAO入試や、推薦での口頭試問が実施されるなか、合格実績は全学群合わせて23名でした。昨年度入試からシステム工学群に県内卒のAO入試が導入され、県内推薦人数枠が減少し、環境理工学群ではセンター試験利用の推薦が導入され、また県内推薦人数枠の減少など入試制度の見直しが続き、来年度からは情報学群で学科試験を課すAO入試に重点が置かれています。

本校の最近の進学についてみると、例年約半数が進学しているように、今年は全体の約54%が進学となっています。4年制大学へ進学者の数は68名であり、例年よりやや増加していました、専門学校進学者の数が例年より10名程度減少しています。中でも国公立大学への進学者数は30人前後と全国の他の工業高校に比べ多く、高い進学率になっています。中でも、地元の工業系大学である高知工科大学への進学者が多くを占めています。高知工科大学の結果は、全て高知県内高校卒を使用したAO入試・推薦入試によるものです。また、他の国公立大学への進学は、主に専門学校卒のAO入試や推薦入試を使用することで実績を挙げています。また、高知大学理学部は理工学部へ改組される中、情報科学科に2名合格と実績を残すことができました。

そして、全国的な流れとして大学入試改革として、2020年度(現高校1年生から対象)から「大学入学共通テスト」として、思考力・判断力・表

現力を中心に評価することで大学教育を受けるために必要な能力を測定することを目的としたテストの実施が検討されています。現行の大学入試センター試験は全てマークシート方式で実施されていますが、「大学入学共通テスト」では一部記述問題が導入されます。当初は国語と数学で実施され、2024年度以降からは地理歴史・公民や理科分野に広げることが検討されているということです。

また、2019年度(現高校2年生から対象)から「高校生のための学びの基礎診断」も考えられています。それは、これからの社会で必要とされる能力を踏まえ、大学進学希望者に限らず、すべての高校生の学習意欲の喚起と基礎学力定着に向けた試みとしています。

そして、中教審は2019年の開学を目指し、実践的な職業教育を行う新しい高等教育機関とし

平成29年度 科別進学者数

	機械	電気	情報	化学	土木	建築	総テ	合計
国公立大学	2	4	16	3	1	2	1	29
私立大学	1	1	5	3	6	14	9	39
公立短大	0	0	0	0	0	0	0	0
私立短大	1	0	1	0	0	2	4	8
高専	0	0	0	0	0	0	0	0
ポリテク・他	1	1	2	0	0	0	0	4
職業訓練校	0	0	0	0	0	0	0	0
専門学校	9	7	5	5	5	9	14	54
各種学校	0	0	0	0	0	0	0	0
計	14	13	29	11	12	27	28	134

て「専門職大学」の創設を答申しました。それは、成長分野の現場でけん引役となる人材を育成、企業内実習は4年制課程で600時間以上の履修を義務付けるとしています。県下では、高知リハビリテーション学院が専門職大学に認可されました。また、高知学園短期大学も大学へと変化しようとしています。

このように大学の学科改変や大学入試制度、専

門職大学など大きく変貌をしようとしている中で、工業高校生徒の大学進学的手段方法に対してアンテナを張って情報を集めなくてはならない状況になっています。同窓生の皆様におかれましても、ご助言等ございましたらよろしくお願いいたします。

たします。

最後になりますが、同窓会の今後ますますのご発展と、同窓会各位のご活躍をご祈念申し上げます。

企画・情報部より

本年度の会報では母校が力を入れている2つの取り組みについて紹介します。

1. イノベーションKTの取り組みについて

高知工業高校では5年前から教育活動(イノベーションKT)を行っています。本年度から1年生の教科に取り入れて活動を行っています。



2. 平成29年度 高知県立高知工業高等学校 課題研究発表会

高知工業高校では、毎年2月に3年生を対象とした『課題研究発表会』を行っています。姉妹校の石川県立小松工業高校の代表生徒も交え発表をしています(一年毎に石川県と高知県を行き来して発表会を開催しています)。今年度より最優秀発表賞には同窓会より副賞を贈呈し、支援をしていきます。

※上記の詳細については高知工業高校ホームページをご覧ください。

<http://www.kochinet.ed.jp/kochikogyo-h/innovation/innovation.html>



部活動の成績

◆ 全国大会出場

陸上競技部

・平成30年度全国高等学校総合体育大会 秩父宮賜杯第71回全国高等学校陸上競技対校選手権大会
平成30年8月1日～6日
三重県伊勢市 三重交通 G スポーツの杜 伊勢陸上競技場

少林寺拳法部

・平成30年度全国高等学校総合体育大会 少林寺拳法競技大会
平成30年8月3日～5日
愛知県 西尾市総合体育館

空手道部

・平成30年度全国高等学校総合体育大会 第45回全国高等学校空手道選手権大会
平成30年8月3日～6日
岐阜県岐阜市 岐阜メモリアルセンター で愛ドーム

柔道部

・平成30年度全国高等学校総合体育大会 第67回全国高等学校柔道大会
平成30年8月8日～12日
三重県津市 サオリーナ

ボート部

- ・第 71 回 朝日レガッタ
平成 30 年 5 月 2 日～5 日
滋賀県大津市 琵琶湖漕艇場
- ・平成 30 年度全国高等学校総合体育大会ボート競技大会
第 66 回 全日本高等学校選手権競漕大会
平成 30 年 7 月 29 日（開会式）～8 月 2 日
愛知県東郷町 愛知池漕艇場 東郷コース

自転車競技部

- ・平成 30 年度全国高等学校総合体育自転車競技大会
平成 30 年 8 月 3 日～7 日
静岡県伊豆市 大野日本サイクルスポーツセンター

水泳部

- ・2018 年度 関西選手権水泳（飛込）競技大会
平成 30 年 6 月 21 日～24 日

◆ 四国大会出場

ソフトボール部

- ・第 62 回 四国高等学校ソフトボール選手権大会
平成 30 年 6 月 16 日～17 日
高知県高知市 春野総合運動公園

バスケットボール部

- ・第 71 回 四国高等学校バスケットボール選手権大会
平成 30 年 6 月 16 日～17 日
徳島県鳴門市 大塚スポーツパークアミノバリューホール

陸上競技部

- ・第 71 回 四国高等学校選手権大会陸上競技大会
平成 30 年 6 月 16 日～18 日
香川県立丸亀競技場

大阪府大阪市 大阪プール

- ・第 41 回 全国 JOC ジュニアオリンピックカップ
夏季水泳競技大会
平成 30 年 8 月 21 日～25 日
大阪府大阪市 大阪プール
- ・第 94 回 日本選手権水泳競技大会 飛込競技
平成 30 年 9 月 19 日～23 日
東京都辰巳国際水泳場
- ・第 94 回 日本選手権水泳競技大会 オープンウ
ォータースイミング競技
平成 30 年 9 月 22 日～23 日
千葉県館山市 北条海岸（鏡ヶ浦）

自然科学部

- ・第 43 回全国高等学校総合文化祭
自然科学部門出場
平成 31 年 7 月 27 日～29 日
佐賀県 佐賀大学

少林寺拳法部

- ・第 13 回 四国高等学校選手権大会 少林寺拳法
大会
平成 30 年 6 月 16 日～17 日
香川県 藤井高校

空手道部

- ・第 26 回 四国高等学校選手権大会 空手道大会
平成 30 年 6 月 16 日～17 日
愛媛県 伊予三島運動公園体育館

水泳部

- ・第 41 回 全国 JOC ジュニアオリンピックカップ
夏季水泳競技大会四国予選
平成 30 年 7 月 14 日
徳島県徳島市 JA バンクちょきんぎょプール
- ・第 69 回 四国高等学校選手権水泳競技大会
（飛込み）

平成 30 年 7 月 15 日

徳島県徳島市 JA バンクちよきんぎょプール

・第 69 回 四国高等学校選手権水泳競技大会（競泳）

平成 30 年 7 月 14 日～15 日

愛媛県松山市 松山中央公園プール

ボート部

・第 27 回 四国高等学校選手権大会 ボート大会

平成 30 年 6 月 16 日～17 日

愛媛県今治市玉川町 玉川湖漕艇場

自転車競技部

・第 50 回 四国高等学校自転車競技選手権大会

平成 30 年 6 月 9 日・10 日・16 日

広島県立中央森林公園松山競輪場瀬戸風バンク

登山部

・平成 30 年度四国高等学校登山選手権大会

平成 30 年 6 月 15 日から 17 日

徳島県剣山山系



本 部 よ り

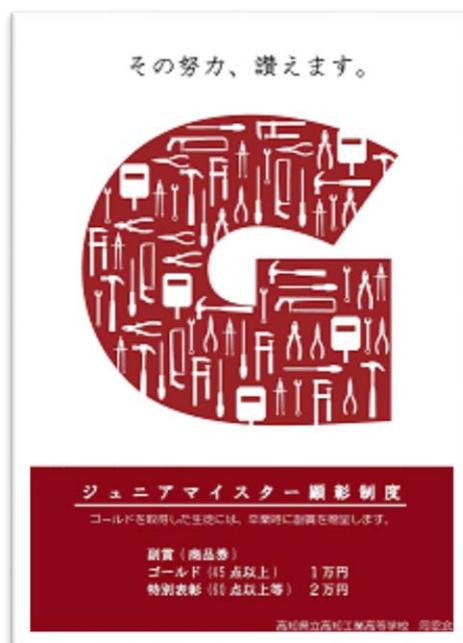
1. ジュニアマイスター顕彰制度

本年度の総会において、ジュニアマイスター認定生徒への支援が承認されました。

同窓会では、ジュニアマイスター顕彰制度のポスターを全クラスに配布し支援の PR を行っております。

ジュニアマイスター顕彰制度とは、生徒の学習意欲の向上を目指して工業系学科を学ぶ高校生が、在学中に取得した各種国家資格や検定の合格を通して身につけた知識や技術・技能など競技会の成績などに点数をつけ、その合計点により『（社）全国工業高等学校長協会』が表彰する制度です。

ジュニアマイスター顕彰に係わる区分表による得点の合計が、『45 点以上であればジュニアマイスターゴールドの称号』が授与されています。



2. 学校管理バスについて

平成 31 年より同窓会で支援を行う『学校管理バス』です。

母校での現場実習や部活動（遠征・大会参加）等で有効に活用していただきたいです。生徒たちの活躍を大いに期待しています。



3. 事業計画・経過報告

月	日	事業内容	月	日	事業内容
4	4	会計監査	10	20	次年度半世紀・四半世紀世話人会
	7	半世紀・四半世紀世話人会		11	3
	8	第1回常任役員会	4		静岡支部(静桂会)総会
	15	第1回理事会	25		嶺北支部(吉野川会)総会
	28	開校記念ゴルフ大会	12		1
	29	総会(ザ クラウンパレス新阪急高知)		21	『工業ハ富国ノ基』読書感想文優秀作品表彰
5	2	高知工業高等学校開校記念講演	12	28	轟組高知工業OB会
6	16	大阪支部(鯨工会)総会		1	27
	19	幡多支部(波多愛校会)総会	2		同窓会会報(第58号)発送
	30	野球部OB会総会		2	4
7	7	東海支部(南風会)総会	18		同窓会入会式・記念品贈呈(全日制)
	14	物部川支部総会		生徒と県外支部との懇談会	
	21	第2回常任役員会	3	1	同窓会通信の配布
9	8	同窓会・PTAによる就職模擬面接		四電高知支部総会	
	22	安芸支部(芸工会)総会	※室戸支部(室戸鯨工会)総会は未定		
10	3	母校体育祭			
	13	東京支部(桂工会)総会			

4. 業務時間について

本部にご用の方は、下記時間帯にお願いします。

11:00~15:30 毎週(水曜日・土日・祝祭日を除く)

尚、HPからもお問い合わせが出来ますのでご活用下さい。



高知工業学校校歌

作詞 工業学校教諭 岡林 九敏
校閲 早稲田大学教授 相馬 御風
作曲 市第三小訓導 岡 寛

1. 鯨鯢吼ゆる南溟の
怒涛逆巻く快天地
万岳の翠北に負い
ここに生れし健男児
2. 富国の基は工業の
発展進歩にあるぞとて
偉人の遺せし勲業ぞ
我が学舎に輝ける
3. 火頭水身両翼の
校旗の光燦として
集える健児一千余
向上の意気天を衝く
4. 学界彼岸は遠くとも
勇往邁進たゆみなく
造化の宝庫開き得て
いざや尽くさん国のため

高知工業高校校歌

作詞 田村 司郎
補作 校歌作成委員会
作曲 平井 康三郎

1. 筆山のみどりに映えて
城南の空かがやく朝
たくましき科学の力
建設の息吹いさまし
工業地帯
わが学び舎の希望の窓に
おお 雲が呼ぶ 雲が呼ぶ
2. 伝統の美風をまもり
集う若人こころは燃えて
あたらしき技術を磨く
この理想つねにかわらじ
工業高知
わが学び舎の薨の上に
おお 虹が立つ 虹が立つ
3. 身をきたえあこがれ清く
羽搏かんいざいざ火水鳥
たゆみなき生産の歌
大空にひびけとどろけ
工業日本
わが学び舎の誇りも高く
おお 旗が鳴る 旗が鳴る



高知県立高知工業高等学校同窓会

〒780-8010 高知県高知市棧橋通2丁目11-6
tel 088-831-4133 fax 088-831-4133
e-mail: kths2004dousoukai@leaf.ocn.ne.jp

高知工業高校同窓会 [検索](#)